

「腸内環境デザイン」グループ

終了評価報告書

日 時: 令和8年5月 12 日(火) 13:00 ~ 15:00

場 所: かながわサイエンスパーク東棟 201 会議室、オンライン

委 員:

大谷 直子 大阪公立大学大学院医学研究科 病態生理学 教授

小田巻 俊孝 森永乳業株式会社研究本部 バイオティクス研究所 所長  
微生物探索研究室 室長

坂田 恒昭 大阪大学共創機構 特任教授

中島 淳 国際医療福祉大学消化器内科統括 教授、熱海病院 病院長

報告者: 「腸内環境デザイン」グループ グループリーダー 福田 真嗣

上記の日時場所において評価委員会を開催し、事前に提出を受けた当該事業に関する報告書などを踏まえ、グループリーダーによる成果報告と自己評価説明並びに事務局より特許・決算状況の説明を受け、その内容に関連した質疑応答を行った。これらをもとに委員の間で意見交換を行い、評価結果を以下に取りまとめた。

【総評】

福田リーダーは腸内細菌叢の分野でオピニオンリーダーとして活躍しており、本研究課題における成果においても最先端の研究も取り入れており、さらには国内外のアカデミアおよび企業との共同研究を進められており、素晴らしいものがある。

当日はアレルギー制御基盤技術および大腸がんと腸内細菌、神奈川県も協力した今後の展開の成果を中心としての発表があった。アレルギー疾患関連の医薬・診断薬への社会実装に関しては、A タンパク質のスーパー抗原としての役割と IgE への結合様式を明らかにした。生理学的には A タンパク質のアレルギー増悪化への関与が強く示唆された。今後健常人でのタンパク量の問題等、解決しなければならない問題点はあるにせよ初期の目的は達成していると判断した。

今後ステージが進むにつれて社会実装に向けての臨床研究・臨床試験などの数多くのハードルがあるが、ヒトでの有効性を臨床研究などを病院との協業を通じて示し、製薬企業、診断薬企業へのライセンス活動も活発化する必要がある。

大腸がんと腸内細菌に関しては、世界中で数多くの研究がなされているが、本研究を発展させれば革新的な治療法になる可能性があるため、大腸がんの早期発見などヒトでの有用性の検証を行い、抗 B 抗体および PCR 法による診断方法の更なる開発に努めていただきたい。本研究も診断薬企業へのライセンス活動も活発化する必要がある。

以上総論として本研究課題は福田リーダーの指導により問題なく進められており、大きな成果を得られつつあると判断できる。今後の進展に期待したい。

#### 【各論】

#### 【研究成果】

既にアレルギー疾患の治療薬となりうる物質を対象とした特許出願も済ませている。また多くの共同研究も行われており、学会発表も多くなされている。大腸がんと腸内細菌に関して特許出願も済ませている。本研究も共同研究も行われており、学会発表もなされている。

#### 【研究の方向性】

多方面にわたる研究成果により社会実装へのシーズは十分にあると考える。今後はヒトでの有効性、エビデンスを積み重ね、更なる新展開となるような医療法の開発に期待する。

#### 【研究費・人員体制について】

運営については科研費などの外部資金獲得や学会発表、特許出願もされており、問題なく進められたと認識している。

令和 8年 5月 22日

委員長 坂田 恒昭 